

特集にあたって

東日本大震災から5年が経とうとしています。1995年の阪神・淡路大震災以降だけを振り返っても、地下鉄サリン事件、JR福知山線脱線事故、ほかにも火山噴火、土砂災害などの自然災害や集団災害、大事故が数多く発生しています。

災害に対する準備やシステムはずいぶん発達してきました。しかし一方で、災害は毎回異なった形でやってくるため、具体的に人的、物的に何を準備しシステム化するのか、あるいは災害をどう想定してどう訓練するのが効果的なのかに関しては、まだまだ手探りで議論のあるところだと思います。

本特集では、まずは、阪神・淡路大震災以降の災害医療を振り返り、続いて災害医療に関する基本的事項とその準備、災害時の具体的な医療活動、また災害時に特徴的な傷病、災害に対する教育や訓練までを扱っています。コンパクトながら災害医療についての心構えをもち、知識を網羅できるような特集にしたいと考え、それぞれの第一線の先生方にご執筆をお願いしました。

本特集が、災害医療の実践にお役に立てるようなら幸いです。